

## 豊島区産業界ヒアリング調査結果

### 1. 調査目的

区内における産業界（地元企業）の現状と課題を明らかにし、今後10年間で進むべき方向性や必要な支援策、そして産業界が地域に果たすことのできる役割を検討するための基礎資料とすることを目的に実施した。

### 2. 調査方法

訪問による聞き取り調査方式

### 3. 調査対象団体

団体名	ヒアリング実施日
一般社団法人 豊島産業協会	5月21日（木）
豊島区商店街連合会	5月25日（月）
一般社団法人 豊島区観光協会	5月26日（火）
東京商工会議所 豊島支部	5月27日（水）
豊島区印刷関連産業団体協議会	5月28日（木）
公益社団法人 豊島法人会	5月28日（木）

### 4. 主なヒアリング項目

- ・ 団体の概要
- ・ 地元産業（団体及び会員）を取り巻く近年の動向、変化
- ・ 地元産業の業況（経営状況）
- ・ 地元産業が抱えている課題（担い手、創業）
- ・ 課題への対応方針、今後の展開（活性化の方針）
- ・ 区や地域と協働できること、地元産業界の役割
- ・ 区への期待、意見、要望

### 5. ヒアリング結果の概要

#### ◆事業継承は今後も課題となるので、早めの対策が必要

- ・ 少人数による家族経営企業では、跡継ぎ問題が発生している。
- ・ 地域によっては世代交代できずに、閉店するところもある。
- ・ 事業継承の相談が増えてきているが、50、60代の元気な社長に事業承継の話をして、受け入れてもらいにくい。

#### **◆商店街の構造変化への対応が必要**

- ・以前は土地所有者＝経営者という構造であったが、今は土地所有者と経営者が異なるケースが増えてきている。
- ・チェーン店が増え、経営者が商店街の会合に顔を出さなくなり、店同士の関係が希薄となつてきている。
- ・外国人の経営者が増えてきており、マナーに問題がある場合もある。

#### **◆社会貢献を含むイベントによる地域のネットワーク化及び活性化の推進**

- ・イベントでも社会貢献的な要素があるものは長続きする。
- ・商人まつりには、町会や老人会がブースを出すほか、警察や消防も参加するなど、地域団体との連携を高める機能もある。例えば、警察は振り込め詐欺のチラシを配布でき、主催者側は警備上安全になるなど、双方にメリットがある。
- ・商人まつりにより、バラバラだった商店街にまとまりが生まれている。大規模なイベントを実施することにより、その効果も大きくなっている。

#### **◆産業団体間の連携促進**

- ・各団体の会員が重複している。また、同種の事業（研修、セミナー）を行っており、連携して取り組むことができれば、さらに充実した事業ができる。
- ・より良いイベントとするためには、団体間の連携を一層強める必要がある。
- ・団体がより力を発揮するためには、区が主導してでも連携する必要がある。それぞれ街をよくしよう、地域を活性化させようとの思いは共通している。

#### **◆次代を担う世代の考えを反映した施策が必要**

- ・次代を担うであろう 40、50 代の人たちが何をやりたいのかを把握し、それを施策に反映していくことが重要である。この年代が将来の方向性を示すなら、年代の高い人たちはその施策に協力するであろう。

#### **◆魅力ある団体づくりの推進と活性化に向けた若手・女性経営者へのアプローチが必要**

- ・（統計はないが）女性経営者が非常に少ないとの実感がある。今後、女性経営者や女性に対して、団体としてどのような事業展開ができるかが課題である。
- ・20、30 代の若い会員はあまりいない。対象者は区内にも多くいると思うが、年会費もあまり高くないことから考えると、団体への興味や加入のメリットがないことが要因と推測される。

#### **◆訪日外国人が訪れたいと思う、魅力ある豊島づくりの推進**

- ・オリンピックに向けた訪日外国人への対応が必要である。
- ・訪日外国人に対しては、接客用の英会話が必要であり、その人材の育成に力を入れることが必要である。
- ・移動時にインターネットが途切れないよう、Wi-Fi 環境を充実させる必要がある。
- ・訪日外国人は観光が目的であり、ついでに豊島で買物をしていくことから、豊島区内に訪日外国人を惹き付ける観光の目玉が必要である。

- ・ボランティアガイドの育成と派遣体制の整備に一番力を入れている。
- ・訪日外国人への対応は、シルバー人材センターの活用を考えている。シルバー人材センターには、海外等で働いた経験を持つなど、外国語に堪能な逸材がいると聞いている。
- ・日本食に興味がある外国人に対応するため、多言語のメニュー開発など、受け入れ姿勢を整える必要がある。
- ・新宿区や渋谷区と比較して、外国人に対応できる観光の案内拠点が少ない。池袋だけではなく、例えば地蔵通り商店街等にも拠点が必要ではないか。

#### ◆訪れて良かったとの思いが定住へとつながっていく

- ・消滅可能性都市への対応策は定住化促進であり、観光とはワンクッション違う。共通する部分は魅力づくりであり、住んで良かった、訪れて良かったという部分を融合させる必要がある。安心して遊ぶことができ、良い思い出をつくってもらえれば、いずれ住んでくれるようになるかもしれない。

#### ◆新たなまちづくりの拠点や、地域の特性にあわせたまちづくりが必要

- ・新庁舎のある東口がまちづくりのメインになっているのではないか。例えば、池袋は元気だが、巣鴨や目白は元気がないという話を聞く。地域の特性にあわせたまちづくりについて、区の考えを示すべきではないか。
- ・人口密度が高く、住宅街もあるので難しいが、サンシャイン以外にも、商業等の集積するところが必要ではないか。

#### ◆地域ニーズに対応できるよう、補助金制度の改革が必要

- ・ある程度斬新な商店街活動にも対応できる補助金制度とすべきではないか。具体的には、商店街連合会でなくても、二、三の商店街が集まって、地域にあった取り組みができるよう、一定程度自由な裁量で活用できるような検討もしてほしい。
- ・安全・安心という視点から、壊れた防犯カメラを修理できる補助金がほしい。

#### ◆区と団体による協働の取り組みの推進

- ・団体として、手伝うことができるものがあれば、率先して行いたいので、区側からの積極的な情報提供を望む。
- ・池袋の場合は、商工業だけではなく、文化、芸術を中心にまとまってきた背景がある。文化創造都市宣言に加え、国際アートカルチャー構想といった大きな流れがある。ぜひ賛同して、商工業の発展だけでなく、文化、芸術の発信でも何か手伝いたい。